

## ○スミフェロン注 DS [注]

【重要度】★★★ 【一般製剤名】インターフェロン- $\alpha$  interferon alfa 【分類】天然型インターフェロン製剤

【単位】○DS300・○DS600 万 IU/シリンジ (1mL)

【常用量】1日 300万～600万単位

【用法】筋注・皮下注

【自己注】スミフェロンではB型・C型肝炎以外の腎癌などについて自己注の保険適応あり（自己注用患者指導手帳あり）外来にて1クールに30日分の投与可能である（週3回投与なら、1クール12V処方可能）

【透析患者への投与方法】300万単位を週3回透析後に投与（Doi S, et al: Rinsho Ketsueki 42: 549-53, 2001）HCVに対しては300万単位を週3回透析後に投与（山口友明, 他: 日病薬誌 38: 187-90, 2002）

【その他の報告】HCVに対しては500万単位を2週間連日投与+12週間透析後に投与（甲斐耕太郎, 他: 透析会誌 35 (S1) : 815, 2002）例数は少ないがHCVに有効であった（Nephron 80: 51-6, 1998）C型肝炎に[300万単位×3週の6ヶ月投与]は, [500万単位×3週 3ヶ月+500万単位×1週 3ヶ月投与]のレジメンに比べ効果が高く, 脱落率が低く, 副作用も少ない（Grgurevic I, et al: Nephron Clin Pract 103: c8-11, 2006）HD患者において $\beta$ 2-MGが上昇した報告（Espinosa M, et al: Clin Nephrol 56: 378-81, 2001）

【保存期 CKD患者への投与方法】Ccr>50mL/min : 300～600万単位/日, Ccr 10～50mL/min : 300万単位/日, Ccr<10mL/min : 300万単位を週3回 (5)

【特徴】抗ウイルス活性増強作用、NK細胞やマクロファージの活性化を介したウイルス感染細胞の排除による直接的・間接的抗ウイルス作用がある抗腫瘍活性も有する

【主な副作用・毒性】難聴、間質性肺炎、感染症、インフルエンザ様症状（発熱等）、抑うつ、自殺企図、意識障害、見当識障害、せん妄、ネフローゼ症候群、顆粒球減少、血小板減少、溶血性尿毒症症候群、溶血性貧血、無菌性髄膜炎、ショック、心筋障害、消化管出血、四肢の筋力低下、急性腎不全、網膜症、糖尿病、末梢神経障害など

【tmax】スミフェロン：筋注時6～9hr、皮下注時6～8hr (1)

【代謝】インターフェロンは腎で代謝される（11, Bocci V, et al: J Interferon Res 1: 347-52, 1981）INF- $\alpha$ は肝に取り込まれCYP1A2および3Aを阻害するが通常用量では影響を与えない（Pageaux GP, et al: Eur J Gastroenterol Hepatol 10: 491-5, 1998）

【排泄】インターフェロンは近位尿細管で再吸収されるが尿中に排泄される（11）

【CL】167mL/min (10)

【t1/2】筋注時9.6hr (1) 5hr (10) 【透析患者のt1/2】非透析日18.4hr（山口友明, 他: 日病薬誌 38: 187-90, 2002）

【蛋白結合率】蛋白と結合しない (11)

【Vd】1L/kg (10)

【MW】17000～30000

【透析性】透析膜により吸着率が異なり、PMMAで1hrで91.4%、PAN膜で65.8%、再生セルロース膜で9.1～55.0%で、セルローストリアセート膜では10.9%/hr吸着する（Yoshizawa E, et al: 透析会誌 30: 1393-402, 1996）分子量は大きいのが透析によってほとんど除去される。300万単位投与48時間後42.9IU/mLが6IU/mL以下になる（Doi S, et al: 臨床血液 42: 549-53, 2001）これは膜付着によるものかもしれない（5）血漿交換によりクリアランスが増大する（Nephron 91: 627-30, 2002）PS1.6UW使用時の血漿濃度低下率25～34%でHD時半減期5.3～6.8hr（山口友明, 他: 日病薬誌 38: 187-90, 2002）

【TDMのポイント】一般的にTDMは実施されていない

【併用禁忌】小柴胡湯との併用により間質性肺炎発症の報告があるため併用を避ける (1)

【更新日】20180530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。